

# 第 2 期 中間事業報告書

平成14年4月1日から

平成14年9月30日まで

The logo for SHiDAX features the word "SHiDAX" in a bold, black, sans-serif font. A small red flower-like icon is positioned above the letter "i". The letter "X" is stylized with a red diagonal line crossing through it from the top-left to the bottom-right.

シダックス株式会社

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成14年4月1日から平成14年9月30日に至る当社の第2期中間事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当中間期のわが国経済は、輸出が増加し、生産もやや持ち直しの動きがみられるなど、一部に明るい兆しがみられたものの、引き続き設備投資の本格的な回復はみられず、厳しい雇用および所得環境から個人消費は依然と停滞を続けるなど回復感のみえない状況で低調に推移しました。

当社をとりまく市場環境も景気の先行き不透明感、リストラの進展による高失業率や有効求人倍率の悪化、戦後初めての深刻なデフレ経済のほかBSE問題、表示の擬装問題の発生による消費者の食に対する不信感の増加など一段と厳しい情勢にあります。

このような環境下、当社は、平成13年4月にシダックスフードサービス株式会社とシダックス・コミュニティー株式会社の共同完全親会社としてシダックス株式会社を設立以降、健康で快適な生活を願う人々の声、豊かさの価値を求める社会のニーズに対し、「食」を通じ高い品質のサービスを提供するという「健康を創る」を経営理念とし、食に関する安全性や、サービスクオリティーの向上、HACCPのより一層の定着、環境への負荷マネジメントや食品リサイクル法を遵守、ならびに平成14年2月に取得しましたISO14001の考え方の現場への普及を推進してまいりました。また、平成13年9月に、当社の100%子会社として取得しましたエス・ロジックス株式会社は、本格的な外部販売を開始いたしました。

コントラクトフードサービス事業におきましては、前期より全社をあげて取り組んでいる構造改革の中で、収益力の向上を目指し、受託施設を業態、規模別に区分し、管理することにより、低収益店舗の利益率改善を推進してまいりました。

メディカルフードサービス事業におきましては、前期に引き続き、病院および社会福祉施設の給食事業の外部委託化の進展ならびに高齢者向け施設の増加による市場拡大に対応し、営業開発員の能力向上と組織的営業活動ならびに管理栄養士の養成を図る等オペレーションの充実を図ることにより、着実に大型店舗等の新規受託が増加いたしております。



代表取締役会長 志太 勤



代表取締役社長 志太勤一

レストランカラオケ事業におきましては、長引く景気低迷、消費者のライフスタイルが、変化する中、より収益性の高い店舗開発を慎重に進め、新規店舗見込み26店舗に対し、21店舗をオープンいたしました。

また、リニューアル店舗に対し、効率的にシステム化してコスト低減を進めてまいりました。

エスロジックス事業におきましては、平成13年9月にエス・ロジックス株式会社を当社の100%子会社として、発足させて以降、大量購買によるスケールメリットを生かし、品質、価格等の市場競争力の強化に努める一方で、当社の営業店の一括仕入率を向上させるため、対応地域を現在の首都圏地区より関西地区までの地域から北海道、東北、北陸、中国四国、九州地区を含む全国に広げる体制を整えました。

当下半期を展望いたしますと、内外の経済の回復は依然として不透明であり、当社の関連市場の変化はより激しさを増すものと思われ、厳しい経営環境が続くものと思われまます。

このような状況におきまして、より付加価値の高いサービス、事業の創出や他社・他店との差別化などに注力し、事業統合の基本理念を着実に実現することで、更なる企業価値の向上を目指していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月

代表取締役会長 志太 勤

代表取締役社長 志太 勤一

## 営業の概況

当中間期のわが国経済は、輸出が増加し生産もやや持ち直しの動きがみられるなど、一部明るい兆しがみられたものの、引き続き設備投資の本格的な回復はみられず、厳しい雇用及び所得環境から個人消費は、依然と停滞を続けるなど、回復感のみえない状況で低調に推移しました。

このような環境下、当社は、平成13年4月にシダックスフードサービス株式会社とシダックス・コミュニティー株式会社の共同完全親会社としてシダックス株式会社を設立以降、持株会社としてグループの企業価値の向上を目指してグループ全体の経営戦略策定と経営管理の機能を担ってまいりました。

当社にとって、経営の重要課題は事業統合の基本理念を着実に実現することでありグループ各社に対し、具体策をとりまとめ逐次実行に移させることでもあります。

当中間期においては、引き続き前年度より取り組んでおります構造改革の中で効率的な事業運営を実現するため、コストを的確にコントロールしながら、グループ各社に対して、経営指導を行ってまいりました。また、事業再編成に伴う費用や、新規店の開発に伴う先行費用が増加したため収益性が低下しましたが、販売管理費に関しては当初予定していた以上のコスト削減効果を実現するに到りました。

コントラクトフードサービス事業におきましては、長引く景気低迷、価格競争の激化の中、前年度より全社をあげて取り組んでいる構造改革の中で、運営の見直しを行い、収益力の向上を目指し、他社との差別化、新規顧客の獲得を推進するため受託施設を業態、規模別のセグメントに区分し、管理することにより、低収益店舗の利益率改善を推し進めました。

メディカルフードサービス事業におきましては、前年度に引き続き、病院および社会福祉施設の給食事業の外部委託化の進展ならびに高齢者向け施設の増加による市場拡大に対応するため、営業開発員の能力向上と組織的営業活動を推進するとともに管理栄養士の養成等オペレーションの充実を図ってまいりました。

当初予想しました以上のオープン費用を計上したものの、着実に大型店舗等の新規受託が増加しました。

レストランカラオケ事業におきましては、長引く景気低迷、消費者のライフスタイルが変化する中、より収益性の高い店舗開発を慎重に進め、新規店舗見込み26店舗に対し21店舗をオープンさせました。

また、発生したりリニューアル店舗に対し、効率的にシステム化してコスト低減を進めました。

エスロジックス事業におきましては、平成13年9月にエス・ロジックス株式会社を当社の100%子会社として、発足させて以降、大量購買によるスケールメリットを生かし、品質、価格等の市場競争力の強化に努める一方で、当社の営業店の一括仕入率を向上させるため、対応地域を現在の首都圏地区より関西地区までの地域から北海道、東北、北陸、中国四国、九州地区を含む全国に広げる体制を整えました。

当下半期を展望いたしますと、内外の経済の回復は、依然として不透明であり当社の関連市場の変化はより激しさを増すものと思われまます。

コントラクトフードサービス事業におきましては、下半期も引き続き低収益店舗の利益率改善が継続し、予想を上回る営業利益を得られる見込みであります。

メディカルフードサービス事業におきましては、既存店利益率が引き続き改善する見込みであります。新規店舗の費用増加を吸収するに到らず、増収となるものの、営業利益は予想を下回ることを見込んでおります。

レストランカラオケ事業におきましては、顧客ニーズに、より一層対応するため、繁忙期であります年末にむけて最新カラオケ機器の入替に383百万円の追加経費投入を含め積極的にリニューアル投資を行う予定です。また新規店舗の開発が遅れていることに伴い、今期の業績に寄与する期間が短くなっていることの影響を加味しております。

エスロジックス事業におきましては、一括仕入率をより向上させるため、現在首都圏地区より関西地区までの対応地域を今事業年度末までに北海道、東北、北陸、中国四国、九州地区を含む全国に広げる予定であります。インターネットを活用した受発注システムであるため、設備投資の増加は寡少であり、範囲拡大に伴い予想を上回る売上高、営業利益を見込んでおります。

さらに、構造改革の一環として下半期より開始する新能力給賃金制度の合理化効果3億円が見込まれるなど、事業効率を重視しコストを的確にコントロールしながら、経営戦略上必要な投資を積極的に行い、企業価値をより一層向上させるよう努めてまいります。

# 中間連結貸借対照表（平成14年9月30日現在）

（単位：千円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流動資産</b>	41,279,466	<b>流動負債</b>	42,225,574
現金及び預金	27,629,373	支払手形及び買掛金	6,744,776
受取手形及び売掛金	7,682,273	短期借入金	5,631,520
たな卸資産	1,131,267	一年内返済予定の長期借入金	11,075,100
その他	4,860,427	一年内償還予定の社債	3,100,000
貸倒引当金	23,875	未払金	7,778,374
		未払法人税等	1,335,155
		賞与引当金	1,446,138
		その他	5,114,508
<b>固定資産</b>	57,440,151	<b>固定負債</b>	28,803,973
<b>有形固定資産</b>	31,801,709	長期借入金	18,978,400
建物及び構築物	28,311,715	退職給付引当金	4,294,126
その他	3,489,994	役員退職慰労引当金	394,629
		連結調整勘定	2,087,877
		その他	3,048,939
<b>無形固定資産</b>	1,047,657	<b>負債合計</b>	71,029,548
		<b>資本の部</b>	
<b>投資その他の資産</b>	24,590,783	<b>資本金</b>	8,930,365
敷金及び保証金	14,756,590	<b>資本準備金</b>	7,847,654
その他	12,009,408	<b>利益剰余金</b>	10,961,915
貸倒引当金	2,175,215	その他有価証券 評価差額金	43,725
		<b>自己株式</b>	6,141
<b>資産合計</b>	98,719,617	<b>資本合計</b>	27,690,069
		<b>負債及び資本合計</b>	98,719,617

（注）記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 中間連結損益計算書(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		58,585,808
売 上 原 価		52,301,854
売 上 総 利 益		6,283,954
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		3,203,364
<b>営 業 利 益</b>		<b>3,080,589</b>
<b>営 業 外 収 益</b>		<b>186,781</b>
受 取 利 息	35,287	
受 取 配 当 金	5,260	
受 取 保 険 配 当 金	13,584	
連 結 調 整 勘 定 償 却 額	56,429	
そ の 他	76,220	
<b>営 業 外 費 用</b>		<b>409,911</b>
支 払 利 息	372,932	
そ の 他	36,978	
<b>経 常 利 益</b>		<b>2,857,460</b>
<b>特 別 利 益</b>		<b>39,817</b>
固 定 資 産 売 却 益	157	
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	39,659	
<b>特 別 損 失</b>		<b>1,382,535</b>
為 替 差 損	1,238,664	
そ の 他	143,871	
<b>税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益</b>		<b>1,514,742</b>
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	1,235,782	
法 人 税 等 調 整 額	454,922	780,860
<b>中 間 純 利 益</b>		<b>733,882</b>

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,767,033
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,605,688
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,703,517
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,187,672
現金及び現金同等物の増加額	17,354,499
現金及び現金同等物の期首残高	9,615,295
現金及び現金同等物の中間期末残高	26,969,795

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 中間貸借対照表 (平成14年9月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流動資産</b>	9,388,326	<b>流動負債</b>	1,567,703
現金及び預金	1,025,376	一年内返済予定の長期借入金	800,000
売掛金	70,479	賞与引当金	92,227
短期貸付金	6,800,000	その他	675,475
その他	1,492,470		
<b>固定資産</b>	29,600,677	<b>固定負債</b>	4,526,330
<b>有形固定資産</b>	688,241	長期借入金	3,200,000
建物	62,357	退職給付引当金	1,308,356
器具及び備品	114,686	役員退職慰労引当金	17,973
土地	511,196	<b>負債合計</b>	6,094,034
<b>無形固定資産</b>	812,159	<b>資本の部</b>	
<b>投資等</b>	28,100,276	<b>資本金</b>	8,930,365
子会社株式	24,158,837	<b>法定準備金</b>	15,178,472
長期貸付金	3,200,000	資本準備金	15,178,472
その他	741,439	<b>剰余金</b>	8,792,272
		中間未処分利益	8,792,272
		(うち中間利益)	(6,440,745)
		<b>自己株式</b>	6,141
<b>資産合計</b>	38,989,003	<b>資本合計</b>	32,894,968
		<b>負債及び資本合計</b>	38,989,003

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。



# 中間損益計算書(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)

(単位：千円)

		科 目	金 額	
経 常 損 益 の 部	営業損益の部	営業収益		8,065,609
		売上高	8,065,609	
		営業費用		1,550,905
		販売費及び一般管理費	1,550,905	
		営業利益		6,514,704
	営業外損益の部	営業外収益		50,421
		受取利息	3,507	
		その他	46,914	
		営業外費用		29,726
		支払利息	2,420	
	その他	27,305		
	経常利益		6,535,399	
税引前中間利益			6,535,399	
法人税・住民税及び事業税		262,979		
法人税等調整額		168,324	94,654	
中間利益			6,440,745	
前期繰越利益			2,351,527	
中間未処分利益			8,792,272	

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 会社の概要 (平成14年9月30日現在)

商号	シダックス株式会社
英文商号	SHiDAX CORPORATION
設立年月日	平成13年4月2日
発行済株式総数	178,607.31株
資本金	8,930百万円
従業員数	3,057名
本店	東京都調布市調布ヶ丘3丁目6番地3
本社事務所	東京都新宿区西新宿3丁目7番1号 新宿パークタワー36F
主要な事業内容	次の事業を営む会社の株式を所有することによる当該会社の事業活動の支配・管理およびそれに付帯する業務。 コントラクトフードサービス事業・ メディカルフードサービス事業 ...シダックスフードサービス株式会社 (事業所・学校・病院・社会福祉施設において、契約に基づき食事を提供する給食事業) レストランカラオケ事業 ...シダックス・コミュニティー株式会社 (直接運営する店舗において、利用客に対しカラオケ設備および飲食物の提供を行うレストランカラオケ事業) エスロジックス事業 ...エス・ロジックス株式会社 (一元物流システムを活用した食材の仕入れ・保管・販売事業)

## 役員（平成14年9月30日現在）

代表取締役会長	志	太	勤
代表取締役社長	志	太	勤 一
代表取締役副社長	若	松	正 雄
常務取締役	藤	田	一 郎
取締役	藤	本	幹 夫
監査役（常勤）	井	戸	昇
監査役	櫛	引	文 隆
監査役	田	中	義 一
監査役	重	泉	良 徳

（注）1．監査役重泉良徳氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

2．取締役藤本幹夫氏は、死亡に伴い平成14年10月16日退任となりました。

## 株 主 メ モ

- 決算日** 3月31日  
**定時株主総会基準日**
- 定時株主総会** 6月
- 配当株主確定日** 3月31日  
(ただし、中間配当を行う場合は、9月30日)
- 名義書換代理人** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社 本店
- (連絡先)** 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 03 - 3323 - 7111 (代表)
- 同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
- 公告掲載新聞** 東京都において発行される日本経済新聞